

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4571900440
法人名	医療法人社団 順養会
事業所名	グループホーム マザーハウス
所在地	宮崎県東諸県郡国富町大字本庄4361番地1 (電話)0985-75-1414
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成20年9月2日

【情報提供票より】(20年8月10日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年6月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤	14 人, 非常勤 1 人, 常勤換算 14.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,540 円	その他の経費(月額)	理美容代 300 円
敷金	有() 円	<input checked="" type="checkbox"/> 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1300 円		

(4) 利用者の概要(8月10日現在)

利用者人数	17 名	男性	5 名	女性	12 名
要介護1	4 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 87 歳	最低	74 歳	最高	101 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	海老原病院 井上歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、町内の中心部にあり、生活活動拠点に適した場所である。母体病院が隣接しており健康管理や緊急時の対応などの面では恵まれた体制が整っている。また、母体病院でのリハビリを毎日受けられる体制にある。「利用者の声なき声をきき、見えないところを察する」をホームの理念とし、「一緒に、ゆっくり、楽しく」を心がけたケアを提供している。地域住民との関係も良く、野菜の差入れや垣根越しの会話、区長や民生委員を中心とした協力体制があり、地域から支えてもらっている。毎年無記名のアンケート調査を実施し、意見をサービスの質の向上に繋げる努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	外部評価を基にした改善への取り組みとして、食事を楽しむ支援の項目は、ホーム自作の野菜や近所からの頂き物を利用し、利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気を作っている。介護計画の見直しに関しては、現状に即して、3か月ごとに見直されており、出来る内容から段階を踏み改善に取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、朝礼や職員会議等で、全職員が取り組んでいる。評価の一連の過程・評価の意義について、全職員が理解している。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議を3か月に1回開催し、町内の他の事業所と合同で行う会議と、事業所独自での会議を実施している。合同で行うことで、他の事業所の優れた点を学べ質の向上に繋がっている。社協、役場、民生委員、区長、家族、利用者が参加しており、利用者の状態や行事の報告を行っている。役場職員から、介護保険関係等の説明もあり、参加している家族の安心にもつながっている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	毎年、家族に対し、無記名のアンケート調査を実施している。アンケート結果は、母体である病院が行うため、ホーム側はどの方が記入したのか分からないシステムになっている。アンケートの意見をサービスの質の向上に繋げることを目的としているが、本音が引き出せていないことを課題としている。毎月「マザーハウス便り」を発行し、利用者の活きいきしている表情の写真や暮らしぶりを載せ、家族に伝えている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入し、老人クラブや小学生との交流、地区のお祭りの参加など地域の方との交流の機会を作っている。近隣住民からの野菜の差入れや一人暮らしの方への食事の差入れと関係を密にしている。地域住民を対象にした認知症予防教室を開き、地域に貢献している。ほとんどの職員を地元から採用しているため、地元の情報や協力も得られやすい。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「利用者の声なき声をきき、見えないところを察する」をホームの理念とし、住み慣れた地域で安心した暮らしができることを目標に作り上げている。		毎月の職員会議等で、地域密着型サービスの必要性を話し合い、更に地域との関係強化に繋げてほしい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念が日々のケアの実践に活かされるように、朝礼や毎月の職員会議で、口に出し意識付けしている。管理者は、ケアの実践を通して理念を具体化し職員と話し合っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、老人クラブや小学生との交流、地区のお祭りの参加など地域の方との交流の機会を作っている。近隣住民からの野菜の差入れや一人暮らしの方への食事の差入れ等関係は深い。地域住民を対象にした認知症予防教室を開き、地域に貢献している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の一連の過程・評価の意義について、全職員が理解している。自己評価は全職員が取り組んでいる。外部評価を基にした改善への取り組みとしては、出来る項目から段階を踏み改善に取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を3か月に1回開催し、利用者の状態や行事の報告を行っている。役場職員から、介護保険関係等の説明もあり、参加している家族の安心にもつながっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	役場担当職員が運営推進会議に参加する以外に、ホームの現状や課題を報告し協力を求めている。必要に応じて、近隣の市町村との連携もとり協力を求めている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月「マザーハウス便り」を発行し、利用者の活いきしている表情の写真や暮らしぶりを載せ、家族に伝えている。健康状態に関しては、常に家族と連絡を取り合っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年に2回開催し、家族からの要望・意見を求める機会にしている。毎年、ホームを利用している家族に対し、無記名のアンケート調査を実施している。アンケート結果は、母体である病院が行うため、ホーム側はどの方が記入したのか分からないシステムにしている。アンケートの意見を質の向上に繋げている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	離職者や同法人ホームの移動はほとんどなく、馴染みの職員が継続的に支援している。新しい職員が入る場合は、管理者や職員がサポートし、利用者の混乱を最小限に留める配慮をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホーム内・母体病院での研修が積極的で、職員の参加も多い。資格取得のための勉強会も行われており、職員を育てるシステムが出来ている。研修後は復命書の記入をし、毎月の職員会議で復命している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回は、同地区内のグループホームと合同で運営推進会議を開催しているが、その時、他のホームの職員と交流が図れている。他のホームに行きソフト食の調理指導を受けたりと相互関係が出来ている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用を考えている利用者・家族に対しては、見学をしてもらっている。入所されたばかりの利用者に対しては、安心してサービスが得られるよう、声かけなどの配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	否定的な言葉を使わず、先ず受け入れ、尊敬の念で対応するよう心がけている。利用者が生きいきとされている場面を大切にし、利用者と共に喜ぶことを心がけている。家庭的な雰囲気の中で、職員や利用者が共に協力合っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	理念である「利用者の声なき声をきき、見えないところを察する」をケアの基本におき、利用者のおもいに添えるよう努めている。おもいが汲み取れない場合は、家族や利用者から聞き取った生活歴を元に、さらに職員間で検討合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、利用者・家族の要望を取り入れ、1か月に1回は職員全体で検討している。来訪の少ない家族には、電話連絡を行い相談している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月ごとに介護計画の見直しを行っている。毎月のモニタリングは、職員会議で検討し行っているものの、計画の評価の根拠が分かりにくい記録である。そのため、職員が同じ視点で評価することが難しい状況である。ホーム側も、介護計画の一連の作業を見直し、より良いものとしたというおもいがあり、検討中である。	○	毎月の職員会議で検討会を行っているが、全職員が同じ視点で評価検討できるよう、記録の内容や方法を検討してほしい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設でのリハビリをほぼ全員の利用者がおこなっており、残存機能低下防止に特に力を注いでいる。利用者・家族の状況に応じ、通院、特別な外出等対応している。ショートステイの受け入れ態勢は整っているが、利用としてはない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望に応じたかかりつけ医から協力を頂いている。ほとんどの方が、母体病院をかかりつけ医としている。毎週、母体病院より看護師が訪問し、全利用者の状態把握をし、適切なアドバイスを受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りを実際行っており、研修会でも事例発表している。ホームとして重度化や終末期に向けてのあり方に対して、職員全体会で説明し利用者ごとの検討もなされている。家族に対しても方針の意向は説明し希望を聞いている。終末期に向けた、母体病院の協力体制は得られている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の自尊心を傷つけない言葉遣いや接遇に関する研修は、職員採用時や定期的な職員全体会議で話し合い確認しあっている。「いけません・できません・だめです」は禁句としている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者との会話の中から得られたその人らしさを基本にし、支援している。希望の表出が難しい方に対しては、顔色や表情を観察しコミュニケーションを大切に、本人のしたい事したくない事のサインを見落とさないようにしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と共に、調理、食事の準備や後片付けと一連の過程を楽しめるように工夫している。食事は利用者と一緒にテーブルを囲み楽しく食事が出来る雰囲気を作っている。ホームの家庭菜園で作った野菜が、料理として出され季節感が感じられる工夫をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週の3回の入浴となっているが、ほとんどの方が、入浴希望され対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや洗濯物干し、調理や食事の準備や後片付け、菜園の草とりや収穫など利用者の役割が準備されている。毎月の外食や週末のドライブなど気晴らしの支援も行い、ホーム内に閉じこもらないよう努めている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	毎日の買い物や菜園の手入れ、土・日のドライブと外出できる機会を多く作っている。中庭は広く、散歩を日課としている利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを実践している。そのため、職員は利用者の動きや言動に気を配っている。職員は、鍵を掛けることの弊害は充分理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の避難訓練を年に2回利用者・職員と行っている。災害時、避難協力体制も地域から得られている。避難訓練時は、近隣の方や区長が参加し、助言をもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量に関しても把握しており、状態の変化に対応できるようにしている。栄養管理が必要な方に対しては、栄養士の助言を聞いている。必要に応じて、高カロリー補助食を活用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物の中央に利用者が集まる共同空間がある。リビングは、広々としており、内装は柔らかな色使いで清潔感にあふれていた。空気の上よみもなく、採光も適切で、季節の花もいけてあり彩を添えていた。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者・家族からの持ち込みをお願いし、利用者の好みに応じた環境作りに努めている。部屋によっては、持ち込みの少ない部屋もあるが、位牌や観葉植物が準備されていたりと使い慣れた持込もあり工夫している。		